

# プレス・リリース

## 国際コンファレンス「アジア市場の統合と金融革新」の開催について

2012年2月17日  
金融庁

金融庁は、日本証券業協会及び株式会社東京証券取引所グループの協力を得て、国際コンファレンス「アジア市場の統合と金融革新」を、平成24年2月10日(金)に開催した。当日は、国内外の金融当局等政府関係者、中央銀行、金融機関、研究者、在京各国大使館関係者等、総勢500名弱の参加があり、活発な議論が展開された。

冒頭の中塚一宏 内閣府副大臣(金融担当)の開会挨拶に引き続き、畑中龍太郎 金融庁長官により、アジアの金融市場の今後の発展に参考となる、これまでの我が国の金融危機対応や中小企業金融の円滑化等についての基調講演が行われた。コンファレンス中には、ジュンス・キム 韓国銀行総裁による、金融市場統合の意義とシステミックリスク管理のためのマクロプルーデンス政策の重要性に関する基調講演、及び、ゼティ・アクタール・アジズ マレーシア中央銀行総裁による、アジア域内における金融経済統合への柔軟性のある、段階的なアプローチについての基調講演(ビデオ上映による)が行われた。

また、「アジア市場の統合と金融革新」に関する4つの課題についてそれぞれのセッションに分かれて議論が行われた。各セッションの主な内容は下記のとおり(各セッションのモデレーターおよびパネリストは別添参照)。

### セッション1: 世界金融危機後の金融市場改革とアジアへのインプリケーション

セッション1(モデレーター: ジェーン・ディプロック シンガポール取引所(SGX)社外取締役(前証券監督者国際機構(IOSCO)理事会議長))では、金融危機後の規制改革の現状を、グローバルな視点並びにアジアからの視点で把握した上でアジアの金融市場での課題を抽出し、今後の金融危機防止策及びアジア諸国に対するインプリケーションについての議論が行われた。

欧州における域内統合の課題や、金融危機後に欧州が行った金融規制・監督体制の整備のほか、IOSCO等の国際機関における規制に関する議論が紹介されると共に、アジアについては、金融システムの相対的な健全性が指摘された。一方で、複雑な金融商品が十分なリスクの説明なしに個人投資家に販売されている問題や、店頭(OTC)デリバティブ規制を始めとする国際的な規制の整合性確保、財政・金融両面における規律の重要性等、アジアにおいても金融危機を教訓として検討すべき課題があるとの認識が共有された。

### セッション2: アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

セッション2(モデレーター: 吉野直行 金融庁金融研究センター長、慶應義塾大学経済学部教授)では、アジア金融市場におけるリスク資金供給を巡る課題に対処するため、マイクロファイナンスを含めた中小事業者向け金融の現状を分析し、アジア金融市場の今後の発展のための方策について、適切な規制の枠組みを含めた議論を行った。

マクロでみて貯蓄超過のアジアでなぜ中小企業に資金が回らないのかという問題提起がなされ、社債や株式市場が主に大企業の資金調達手段として発展してきた点や、借り手である中小企業の財務情報の透明性の問題、抵当権実行が困難な場合があること等が指摘された後、韓国等の事例を提示しつつ、

公的金融機関による信用補完や投資信託を始めとする資本市場の活用、長期の資金提供者としての年金基金・保険の育成等、より円滑な資金供給の実現に向けた提言等が行われた。

### セッション3: アジアの市場統合～競争か、協調か～

セッション3(モデレーター:ザリナ・アンワー マレーシア証券委員会委員長)では、アジア金融市場の統合という観点から、競争と協調をどのように進めていくかについて具体的な課題を検討した上で、アジアの金融市場の活性化に向けた連携、競争のあり方や課題について議論が行われた。

世界的な合従連衡の流れの中、国内に多数の取引所が存在し、競争が活発であるインドや、韓国が精力的に進める取引所の国際的な連携策等の事例が紹介され、アジア各国はそれぞれが独自の歴史や文化を持っており、規制の枠組みや経済の開放度の違いが競争や協調に対する姿勢に影響しているとの認識が示された。また、国際的な取引所の合併の認否について、国益の観点から最終投資家の便益が軽視されがちであるという意見が出た一方、取引所の担う決済機能等の公的な役割のために公正性の観点から慎重にならざるを得ないという意見も示されるなどの議論が行われた。

### セッション4: アジア金融インフラの革新～新しい決済システムのあり方について～

セッション4(モデレーター:カニット・サングスパーン タイ財務省財政政策研究所所長)では、各国の市場を維持・発展させるためには、資金を経済全体に安全かつ円滑に流通させる金融市場インフラが重要な役割を担っているとの認識を踏まえ、金融インフラの礎としての証券及び資金決済システムのあり方に加え、決済システムのイノベーションの現状とアジア諸国におけるさらなる発展の可能性についての議論が行われた。

決済システムの効率性・安全性の向上に向け、アジア域内における中央清算機関(CCP)等の金融市場インフラの育成や適切な競争の重要性が指摘されたほか、日本の資金決済システムの安全性向上に向けた最近の取組みや、IOSCO等の国際機関における金融市場インフラ強化に向けたイニシアチブが紹介され、今後金融市場の拡大が見込まれるアジアにおいては、決済システムの利便性や頑健性、信頼性の向上が重要となっていく旨の認識が共有されたほか、我が国の電子記録債権のアジア諸国への導入の可能性及び課題という、決済システムの金融ビジネスとしての側面についても議論が展開された。

(以 上)

# 国際コンファレンス「アジア市場の統合と金融革新」

平成24年2月10日（金）於 三田共用会議所

9:30-9:35 開会挨拶 中塚一宏 内閣府副大臣(金融担当)

9:35-9:50 基調講演 畑中龍太郎 金融庁長官

9:55-11:15 【セッション1】世界金融危機後の金融市場改革とアジアへのインプリケーション

モデレーター ジェーン・ディプロック シンガポール取引所(SGX)社外取締役  
(前証券監督者国際機構(IOSCO)理事会議長)

パネリスト スティーブン・マイヨール 欧州証券市場機構(ESMA)長官  
ハンス・フーガーホースト 国際会計基準審議会(IASB)議長  
スティーブン・ポー 香港証券・先物取引監察委員会(SFC)シニア・ディレクター、証券監督者国際  
機構(IOSCO)市場仲介者常設委員会議長  
リー・チュアン・テック シンガポール金融管理局(MAS)アシスタント・マネージング・ディレクター  
ジャスパル・シン・ビンドラ スタンダードチャータード銀行グループ  
常務取締役兼アジア最高統括責任者  
河野正道 金融庁金融国際政策審議官

11:20-11:35 基調講演 ジュンス・キム 韓国銀行総裁

11:40-12:55 【セッション2】アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

モデレーター 吉野直行 金融庁金融研究センター長、慶應義塾大学経済学部教授

パネリスト エイドリアン・ブランデル・ウィグナル 経済協力開発機構(OECD)事務総長スペシャルアドバイザー、  
金融企業局次長  
アンドリュウ・シェン ファン・グローバル・インスティテュート会長、中国銀行業監督管理委員会  
(CBRC)顧問  
ジョン・イ 国際弁護士 キム&チャング法律事務所シニア・アドバイザー(前韓国金融委員会  
(FSC)常任委員)  
藤井健司 みずほ証券執行役員 グローバルリスク管理グループ長  
横井真美子 経済開発協力機構(OECD)プリンシパル・アナリスト  
岡田昌治 九州大学 ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター  
エグゼクティブ・ディレクター、教授

(13:00-14:00 昼食)

14:10-14:25 基調講演 ゼティ・アクタール・アジズ マレーシア中央銀行総裁(ビデオ上映による)

14:30-16:00 【セッション3】アジアの市場統合～競争か、協調か～

モデレーター ザリナ・アンワー マレーシア証券委員会委員長

パネリスト 斉藤惇 東京証券取引所グループ代表執行役社長  
マドウ・カナン ボンベイ証券取引所(BSE)マネージング・ディレクター兼 CEO  
グレッグ・メドクラフト オーストラリア証券投資委員会(ASIC)委員長  
ジュリアン・パク 韓国金融監督院(FSS)局長  
ラミン・トルーイ PIMCO アジア エグゼクティブ・バイス・プレジデント ポートフォリオマネージャー  
柏木茂介 野村HDリスク・アドバイザー・グループ担当執行役員

(16:00-16:30 コーヒーブレイク)

16:30-17:45 【セッション4】アジア金融インフラの革新～新しい決済システムのあり方について～

モデレーター カニット・サングスパーン タイ財務省財政政策研究所長

パネリスト マグナス・ポッカー シンガポール取引所(SGX)CEO  
タジンダー・シン 証券監督者国際機構(IOSCO)事務局次長  
宮内篤 日本銀行決済機構局長  
杉浦宣彦 中央大学大学院戦略経営研究科教授